

# ネットいじめ対策

加害者にならない・被害者を守る・傍観者にならない | 50分

対象: 中学1～3年生 | 授業時間: 50分(1コマ)  
準備物: スライド(プロジェクター)、ワークシート(P.4)、事例カード(P.3)  
ねらい: ネットいじめの構造を理解し、3つの立場からの行動力を育てる

## このテーマで扱う3つの視点

### 1. 加害者にならない —— 「軽い気持ち」が犯罪になる

冗談・ノリ・空気で書いた一言が名誉毀損・侮辱罪に。匿名でも法的責任を問われる時代

### 2. 被害者を守る —— 一人で抱え込ませない

被害に気づく方法、証拠の残し方、相談先の具体的な情報。「あなたは悪くない」の伝え方

### 3. 傍観者にならない —— 「見て見ぬふり」も加担になる

傍観が加害を助長する構造を理解。「いいね」を押さない、大人に伝えるという行動の選択肢

## 授業の流れ(50分)

0～5分	導入	「ネットで嫌な思いをしたこと、ある？」匿名アンケート
5～15分	展開1	加害者にならない —— 言葉の暴力と法的責任
15～25分	展開2	被害者を守る —— 証拠保存と相談の3ステップ
25～40分	展開3	傍観者にならない —— ロールプレイ&グループ議論
40～50分	まとめ	ふりかえり・ワークシート記入・行動宣言

## 準備物チェックリスト

- プロジェクター + PC(スライド投影用)
- 事例カード(P.3下部を人数分コピー or グループ数分)
- ワークシート(P.4を人数分コピー)
- この指導案資料(印刷して手元に)

### ☑ 配慮事項

デリケートなテーマです。授業前に「今日の内容でつらくなったらいつでも退出OK」と伝え、養護教諭・SC(スクールカウンセラー)と連携して安全な環境を確保してください。

## 指導のポイント

### ■ 導入(5分) 匿名アンケート&数字で実感

「ネットで嫌な思いをしたことがある人は手を挙げて」だと挙げにくい。  
匿名のミニアンケート(紙に○×を書いて回収)で実態を可視化する。

統計データの提示(文科省調査等):

- ・中学生のSNSトラブル経験率は約3割
- ・ネットいじめの認知件数は年間約2万件以上(増加傾向)
- ・「見たことがある」を含めると過半数を超える

#### 板書ガイド

板書:「ネットいじめ = 3人に1人が経験。でも、止められる」

### ■ 展開1(10分) 加害者にならない —— 言葉の暴力と法的責任

【伝えるポイント】

- ・ネットの悪口 = 教室で叫ぶより広い範囲に届く。そして消えない
- ・「冗談だった」「みんなやってる」は通用しない
- ・匿名でも開示請求で特定 → 名誉毀損罪・侮辱罪で処分される

#### ネットいじめに関わる法律(中学生でも適用される)

- ・名誉毀損罪(刑法230条)—— 公然と事実を示して他人の名誉を傷つける行為
- ・侮辱罪(刑法231条)—— 事実の有無に関わらず公然と他人を侮辱する行為(2022年厳罰化)
- ・脅迫罪(刑法222条)—— 「殺す」「学校に来るな」などの脅し
- ・民事上の損害賠償 —— 精神的苦痛に対する慰謝料請求(保護者が支払い義務を負う)

#### 板書ガイド

板書: 加害 → (1)消えない (2)匿名でも特定される (3)法律で罰せられる (4)親が賠償

### ■ 展開2(10分) 被害者を守る —— 証拠保存と相談の3ステップ

「被害にあったとき or 友人が被害にあったとき」の具体的な行動手順を教える。

#### STEP 1 証拠を残す

スクショ・URL・日時を保存(消される前に!)

#### STEP 2 関わりを断つ

ブロック・ミュート・通報機能を使う

#### STEP 3 相談する

大人(親・先生・SC)に見せて相談。電話窓口も活用

24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310

文科省・24時間対応・無料

法務局 子どもの人権110番 0120-007-110

平日8:30~17:15・無料

警察相談ダイヤル #9110 / 緊急時 110

犯罪レベルの場合は迷わず通報

#### 被害者への声かけ

「あなたは悪くない」「相談することは弱さではなく、自分を守る行動」と必ず伝える。

### ■ 展開3(15分) 傍観者にならない —— ロールプレイ&議論

【傍観者の影響力を伝える】

- ・いじめは「加害者」「被害者」だけでなく「傍観者」がいるから成立する
- ・「いいね」を押す、笑う = 加害への加担。黙っている = 容認のサイン
- ・逆に、傍観者が声を上げればいじめは止まりやすい(研究データあり)

【ロールプレイ】P.3の事例を使い、3つの立場(加害・被害・傍観)を体験

→「傍観者の自分」が取れる行動を具体的に考えさせる

傍観者ができる行動の選択肢:

- ・「それはやめよう」と声に出す / 悪口に「いいね」を押さない
- ・被害者に「大丈夫?」とDMで声をかける / 大人に相談する

### ■ まとめ(10分) ふりかえり・行動宣言

3つの視点(加害・被害・傍観)を振り返り、ワークシート記入。

「いじめを止められるのは、傍観者であるあなた自身」というメッセージで締める。

指導に役立つ用語解説(10語)

ネットいじめ

SNSやチャットを使った悪口・仲間外し・晒し行為。24時間逃げ場がない深刻さ。

傍観者効果

多くの人がいると「誰かが助けるだろう」と行動しなくなる心理現象。

開示請求

匿名投稿者のIPアドレスや個人情報を法的手続きで開示させること。

侮辱罪

2022年に厳罰化。公然と人を侮辱した場合、1年以下の懲役も。

名誉毀損

公然と事実を示して他人の社会的評価を下げる行為。真実でも成立しうる。

スクリーンショット

画面を画像保存する機能。証拠保全に必須。消される前に必ず撮る。

ブロック

特定の相手からの接触を完全に遮断する機能。被害拡大の防止に有効。

通報機能

SNSに備わる不適切投稿の報告機能。アカウント凍結・投稿削除につながる。

スクールカウンセラー

学校に配置される心の専門家(SC)。いじめ相談の重要な窓口。

サイバーパトロール

教育委員会等がSNSの書き込みを監視する取り組み。早期発見に貢献。

事例カード(ロールプレイ・グループ議論用)

事例A: グループLINEでの悪口

クラスのLINEグループで、特定の生徒の容姿をからかうメッセージが連投された。何人かが「笑」スタンプを押した。本人は翌日から不登校に。

事例B: 裏アカウントでの晒し

匿名の裏アカウントに同級生の盗撮写真と「キモい」というコメントが投稿された。スクショが拡散→校内で噂に→被害者は転校を検討。投稿者は開示請求で特定。

事例C: ゲーム内のいじめ

オンラインゲームで特定のプレイヤーを集団で攻撃し「消えろ」とチャットで連投。被害者がゲーム運営に通報→加害者のアカウント永久停止。学校にも連絡が入った。

事例D: 「冗談」の積み重ね

「デブ」「ブス」などの言葉を「冗談だよ」と送り続けた。被害者は心療内科に通院。加害者の保護者に100万円超の損害賠償請求。

事例E: 傍観者が動いた話

グループチャットで悪口が始まったとき、一人が「それはやめよう」と書き込んだ。他の生徒も「そうだよ」と同調→悪口が止まった。勇気ある一言が全体を変えた。

よくある質問(生徒から出やすい質問)

Q. 冗談で書いたのにいじめになるの?

→ 受け取った側が傷ついたなら「冗談」は通用しない。法的にも意図は関係なく、結果で判断される。

Q. チクったら余計にいじめられない?

→ 匿名で相談できる窓口もある。「伝える」ことで状況が改善した事例のほうが圧倒的に多い。

Q. 見てるだけなのに自分も悪いの?

→ 「黙っている=OK」のサインになる。いいねを押す、笑う、黙る——すべてが加害を後押しする。

# ネットいじめ対策 ワークシート

～いじめを止められるのは、あなた自身～

名前: \_\_\_\_\_ 年 組 番 \_\_\_\_\_ 日付: 月 日

## Q1. ネットいじめの「3つの立場」でやってはいけないことを書こう

加害者として: \_\_\_\_\_

傍観者として: \_\_\_\_\_

## Q2. いじめ被害にあったときの3ステップを書こう

STEP1: \_\_\_\_\_

STEP2: \_\_\_\_\_

STEP3: \_\_\_\_\_

## Q3. 事例カードを読んで分析しよう(事例 \_\_\_\_\_)

加害者は何が問題だったか?

傍観者はどう行動すべきだったか?

被害者を助けるために、自分なら何ができたか?

## Q4. ○×クイズ

- 「冗談のつもり」でも、相手が傷ついたらいじめになる
- 匿名なら悪口を書いても問題ない
- いじめを見ても、自分は関係ないから黙っていてよい
- ネットいじめの加害者は、法律で罰せられることがある
- 友だちが被害にあっていたら、大人に伝えるのは「思いやり」

## わたしの行動宣言

ネットいじめをなくすために、私は: